

高齢高血圧者における起立性低血圧と骨格筋量および自律神経機能との関連

Skeletal muscle mass and the autonomic nervous system are associated with orthostatic hypotension in elderly hypertensive patients

木下 あずな

和歌山県立医科大学大学院 保健看護学研究科

【目的】 地域在住の高齢高血圧者を対象に起立性低血圧（OH）と骨格筋量および自律神経機能との関連を検討した。

【方法】 対象者は、和歌山県内の地域住民で、高血圧の服薬治療を受けている高齢者201名（74±5歳）であった。起立負荷検査は座位から能動起立する簡便法で実施し、自動血圧計と自律神経解析用心拍計（クロスウェル製）を用いて血圧と心拍数を連続測定した。OHは起立後2分以内の収縮期血圧が20mmHg以上、拡張期血圧が10mmHg以上低下した場合と定義した。自律神経機能は心拍変動係数（CVRR）と低周波と高周波のパワー比（LF/HF）により評価した。骨格筋量の測定にはBIA法による高精度筋量計（フィジオン製）を使用した。

【結果】 対象者のうち、OHと判定された者は男性26名（25.7%）、女性25名（25.0%）であった。男性では、OHと骨格筋量および自律神経機能の間に明確な関係を認めなかった。一方、女性では、OH群が非OH群に比べて下肢筋量が有意に少なく、起立後の立位姿勢におけるLF/HFとその座位からの変化量（ Δ LF/HF）が有意に低値を示した。また、OHを従属変数とするLogistic回帰分析では、下肢筋量と Δ LF/HFが交絡因子の補正後も有意な独立の規定因子となった。

【結論】 高齢高血圧者において、加齢に伴う下肢筋量の減少は自律神経機能の低下とともに起立時の循環動態に関与してOHを招く要因となる可能性が示された。また、この関係は女性のみで認められ、男女差がみられることが示唆された。